

# 収蔵史料でたどる江戸と上州のつながり

## ～上州に吹いた江戸の風～

展示期間 令和7年8月1日（金）～12月26日（金）

江戸に幕府が置かれ、政治の中心地となった江戸時代。將軍の御膝元であった関八州は、江戸の影響を大きく受けた地域でした。当館では、遠く離れた江戸が身近に感じる様々な史料を収蔵しています。

今回のテーマ展示は、「収蔵史料でたどる江戸と上州のつながり～上州に吹いた江戸の風～」というテーマで開催いたします。

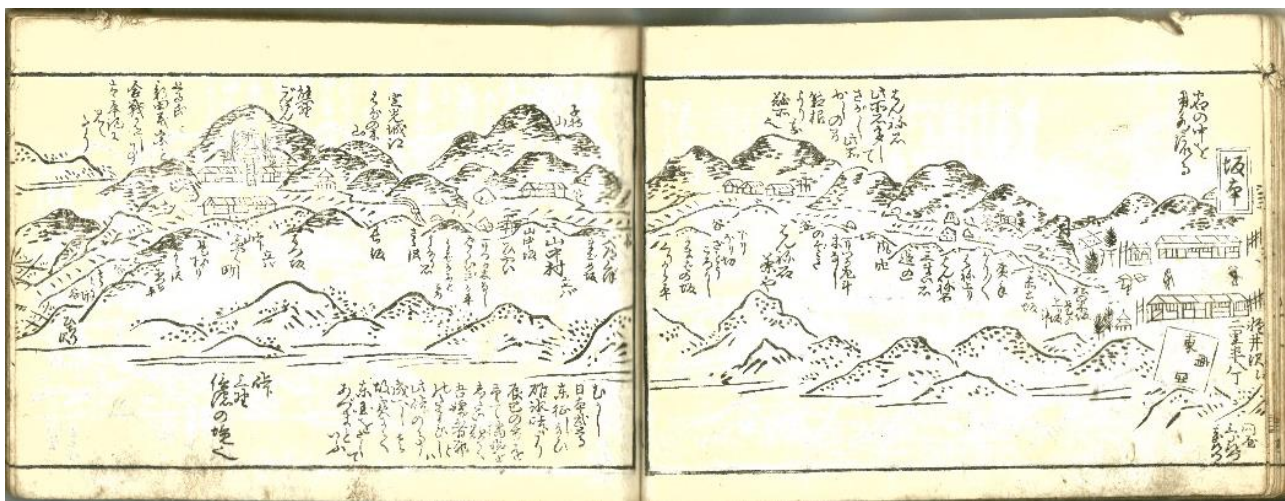
参勤交代など、武士や庶民が江戸に行き来する国家・社会の在り方は、上州の人々の暮らしに江戸の風を吹かせていきます。私たちに伝えられた史料から、江戸の文化や知識とつながる上州の人々の営みに、心を寄せてみてください。

### ロビー展示 上州から江戸へ

史料1 「<sup>きそじあんけん</sup>岐蓐路安見絵図」 宝暦6年（1756）11月

【P1103 土屋喜英家文書 No.429】

（部分）

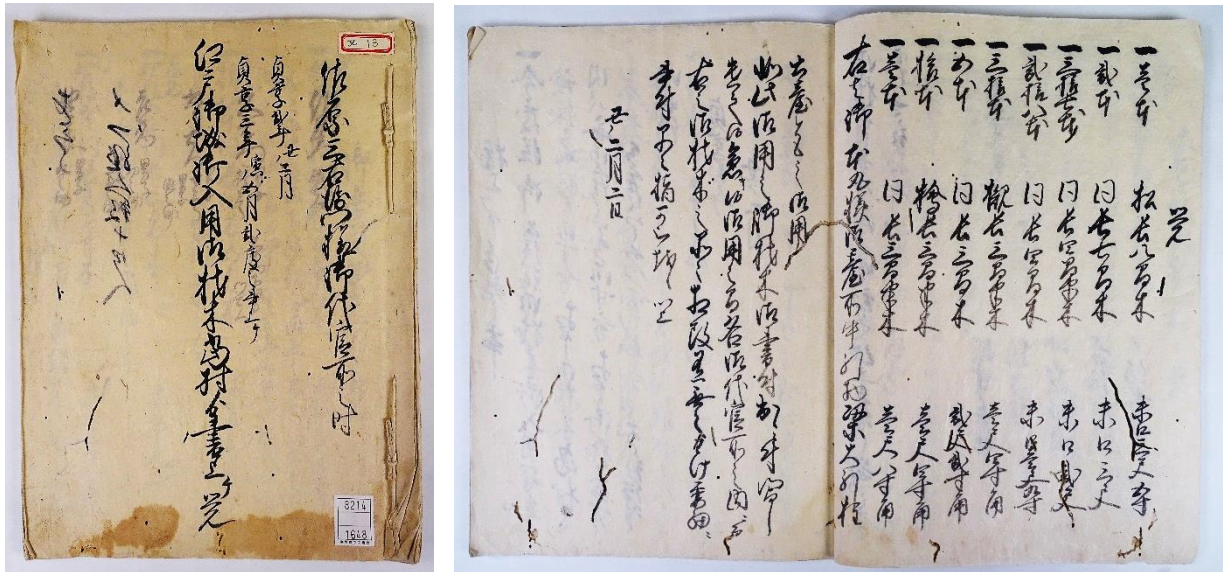


横帳形式で携帯可能な旅案内であり、中山道の道中を紹介するガイドブックです。扉絵に富士山を望見できる「諏訪湖の景」が描かれ、町並や山並を配した江戸日本橋を起点に、蕨・浦和・大宮などの各宿を経て坂本宿から碓氷峠を越えて信州に入り、木曾路（贄川～馬籠間の11宿）に至ります。さらに、美濃・近江を経て京都三條橋へ至る道筋を紹介しています。

道行く旅人の姿や一里塚の木の種類や数、山の姿など細かく描かれており、当時の旅ブームがしのばれる作品です。

# 1 江戸開府と上州

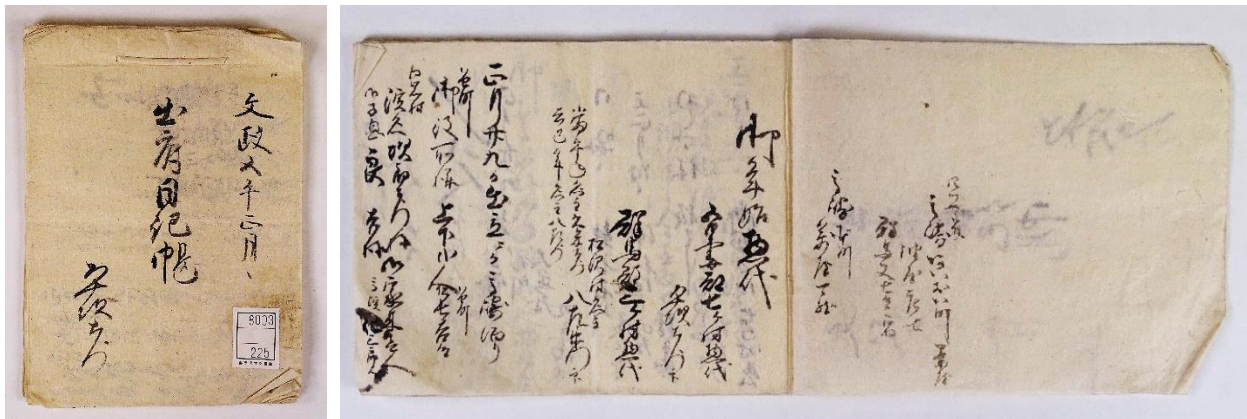
史料 5 「江戸御城御入用御材木書上ヶ覚」 貞享2年(1685)～同3年(1686)  
 [P8214 飯塚馨家文書 No.1648]



江戸の開府により、幕府政治の中心としての威容を整えるべく、江戸城の普請(修築)が一大事業となりました。江戸城の普請は、御手伝普請として諸大名が動員されました。本史料は、江戸城の普請にあたり、上州三波川村から供出した材木を書き上げています。本丸御殿の大奥(御台所)の修繕に使われたことがうかがえます。

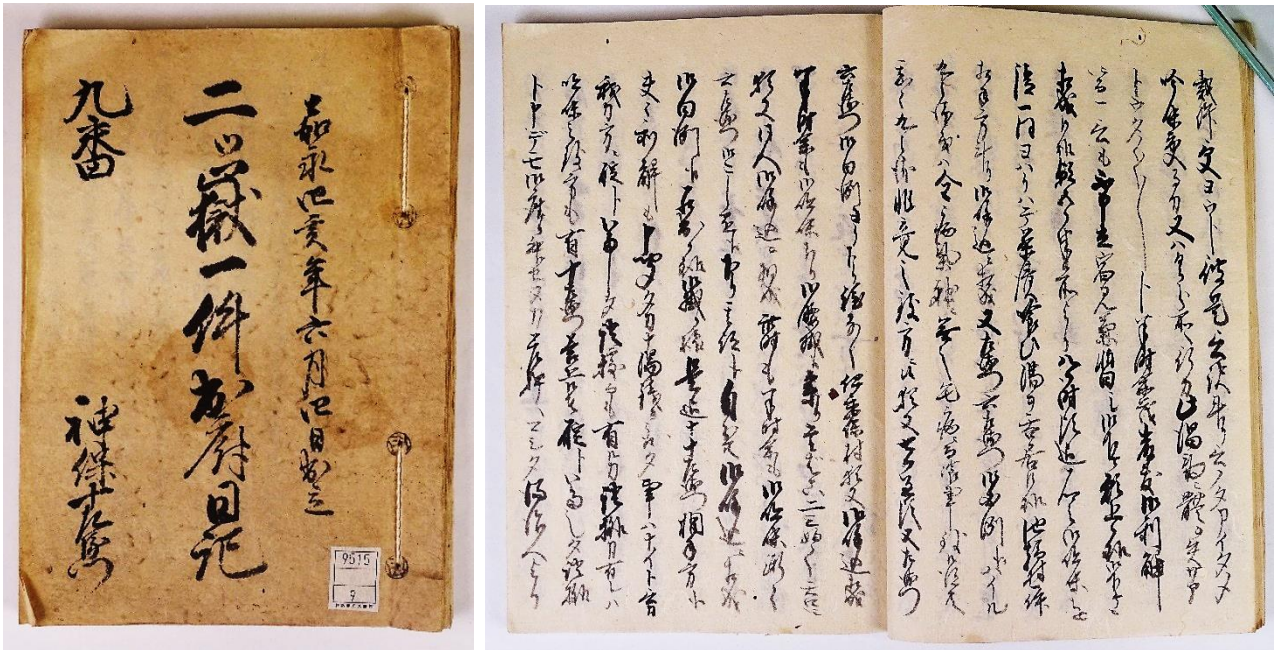
# 3 江戸へ向かう上州人・江戸とつながる上州人

史料 10 「出府日記帳(年頭挨拶)」 文政5年(1822)～  
 [P8003 伊能光雄家文書 No.225]



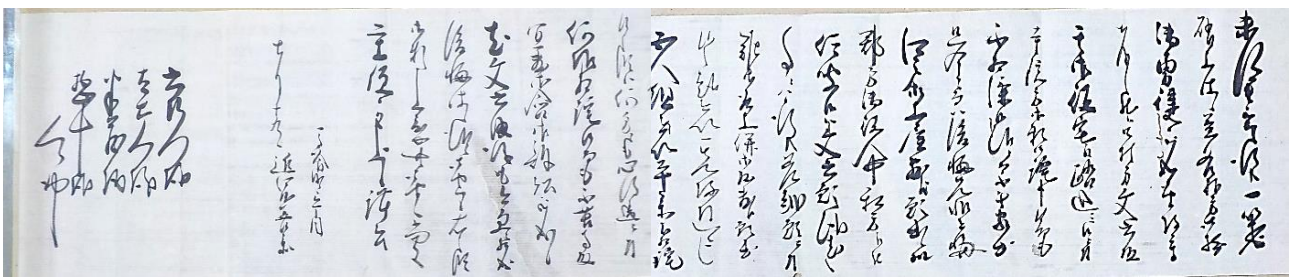
岩井村(東吾妻町岩井)名主の伊能平次右衛門が、旗本保科氏の江戸屋敷へ年始の挨拶に伺う行程が記されています。保科氏の上州の知行所は、岩井村を含む吾妻郡に7か村と群馬郡に3か村ありました。岩井村の平次右衛門と松野沢村(高崎市箕郷町松之沢)名主の八左衛門がそれぞれの惣代として出府します。正月29日に立立し、高崎に泊まり、晦日に熊谷、翌閏正月朔日に浦和、2日に板橋で休憩し、同日江戸屋敷に到着しています。年始の挨拶は閏正月11日に行われたようです。

史料 1 6 「二ツ嶽一件出府日記 九番」 嘉永 4 年（1851）6 月  
 【P9515 前橋市池端町自治会文書 No.9】



榛名山二つ岳には湯気が立ち上る場所があり、江戸時代の中頃から幕末にかけて、蒸し湯（蒸し風呂）をめぐる周辺村々が度々訴訟を繰り返していました。この史料は、弘化 4 年（1847）から続く江戸出訴中の日記の最終巻（9 冊目）です。下野田村と伊香保村が結託し、小屋を建てて湯銭を取って営業したと池端村が訴え、4 年に及ぶ訴訟が始まりました。ここでは、御白洲において白熱する取り調べの様子が記されています。「ドウダドウダ」など話し言葉が文字になっている珍しい史料です。

史料 1 8 「〔文六江戸屋敷願出し一件に付江戸宿より書状〕」 享和 3 年（1803）7 月  
 【P8909 中島徳造家文書 No.1641】



安中藩領五料村の百姓文六は、酒に酔って名主宅で暴れた末に家出をし、江戸に滞在していました。文六は、どうにか帰村したいと藩の江戸上屋敷に駆け込み願いをしたところ、藩の役人は馬喰町三丁目の江戸宿（江戸時代、訴訟・裁判のため出府した者を宿泊させた宿屋）近江屋善兵衛を介して願い出るよう指示をします。この書状は、江戸宿善兵衛が江戸藩邸の役人の指示を受けて、五料村へ送ったものです。江戸宿が、百姓と江戸藩邸との仲介を担う側面がうかがえ、非常に珍しい史料です。

史料 2 8 「〔小野川喜三郎・谷風梶之助 相撲図〕(勝川春章画)」 (近世後期)

〔P8311 黒岩英夫家文書 No.863〕



江戸相撲三傑の谷風梶之助(横綱第1号)、小野川喜三郎を描いた相撲絵です。作者の勝川春章は役者絵の技術を生かして力士の個性的な顔つきや体形を表現し、相撲絵のスタイルを確立しました。

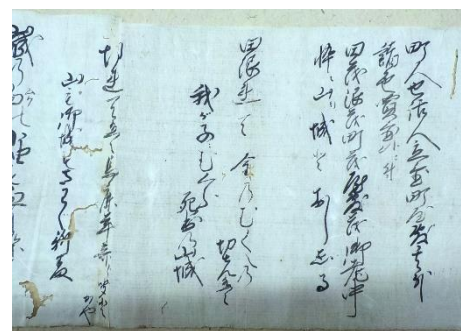
	谷風梶之助	小野川喜三郎
身長	6尺2寸5分 (約190cm)	身長5尺8寸 (約176cm)
体重	43貫 (約161kg)	体重31貫 (約120kg)
総取組数	308	173
勝ち	258	144
負け	14	13
その他	36	16

4 "べらぼう"に身近な江戸文化

史料 3 0 「〔田沼意知一件戯文〕」 (近世後期)

〔PO110 福島英一家文書 No.1744〕

天明4年(1784)3月24日、田沼意次の嫡男・山城守意知が江戸城内で新番士の佐野善左衛門政言に斬りつけられる事件が起こります。この田沼騒動とも呼ばれる事件の前後、それまでの田沼政権への批判や不満が噴出し、江戸の民衆は落首(らくしゅ)により田沼を皮肉って風刺しました。本史料は、田沼騒動に関わる戯文集のようなもので、多くの落首・戯文が掲載されています。意次を指す「主殿」、意次が徴した運上金や賄賂を指す「金」、意知を指す「山城」や「若年寄」、政言を指す「善」や「新番」など、江戸の人々のユーモアと知性が感じられます。



5 幕末の江戸と上州

史料 3 9 「御台場御取建之図」 嘉永6年(1853)8月

〔PO1102 石井忠樹家文書 No.18-1〕



ペリーの来航後、海防強化への切迫感が高まる中、幕府は江戸湾の巡視を行って御台場の築造を決定しました。台場築造計画は、品川沖に11基の御台場を築造しようとするものでした。嘉永6年8月から工事は始まり、第一・第二・第三台場は翌7年7月に、第五・第六台場、陸続きの御殿山下台場は12月に竣工しました。第四・第七台場は築造に着手したものの途中で中止となり、第八台場以降は未着手のままでした。築造当初は、川越藩(第一台場)、会津藩(第二)、忍藩(第三)、鳥取藩(御殿山下)、庄内藩(第五)、松代藩(第六)が警備を担当し、その後入れ替わりながら警備が続けられました。

〒371-0801 群馬県前橋市文京町 3-27-26

Tel:027-221-2346 Fax:027-221-1628

E-mail: [monjyo@pref.gunma.lg.jp](mailto:monjyo@pref.gunma.lg.jp)



もんじょかん  
群馬県立文書館

「収蔵史料でたどる江戸と上州のつながり～上州に吹いた江戸の風～」展示史資料一覧

番号	表題・資料名	和暦年	西暦年	月	文書群・ 簿冊名等	請求 番号	文書 番号	備考
<b>ロビー展示 上州から江戸へ</b>								
1	岐蕨路安見絵図	宝暦6年	1756	11月	土屋喜英家文書	P1103	429	横帳形式の道中ガイドブック。江戸日本橋を起点に、中山道から木曾路に至るまでの宿場や道筋が描かれている。
2	烏川・利根川其筋絵図 坂東太郎川筋一覧	嘉永7年	1854	11月	富澤久幸家文書	P0905	2718	倉賀野河岸(現高崎市)から中川番所(現東京都江東区)までの烏川・利根川沿いの河岸名、河岸間屋名、関所・番所、渡船場、用水、川を横切る街道、社寺等が描かれた絵図。
<b>1. 江戸開府と上州</b>								
3	長禄江戸図	文政元年写	1818	7月	石井忠樹家文書	P01102	21	太田道灌時代の江戸城・江戸を後世に至って描いたもの。各地に写が多く残っており、近世人の懐古趣味や江戸へのイメージがうかがえる。
4	泰平御江戸絵図	(天保期)	(1830-43)		八木健次家文書	P09702	289	近世都市江戸の様相を紹介。武家屋敷に家紋の記載がある。
5	江戸御城御入用御材木書上ヶ覚	貞享2年～ 同3年	1685-86		飯塚馨家文書	P8214	1648	上野国より江戸城普請に関わる材木の供出が行われたことが分かる史料。
<b>2. 江戸と上州を結ぶ道</b>								
6	上野国輿地全図	(近世後期)			西尾市立図書館文書(岩瀬文庫)	HI-1近世	2/5	上野国の街道の発展を関所・番所が設置された様子とともに紹介する。
7	旧前橋城主松平家江戸府内供立之図	(近世)			豊田芳郎家文書	P08107	3	川越城主登城の図。本図は参勤交代ではないが、大名行列により武家・従者が江戸と国元を行き来する様子を紹介する。
<b>3. 江戸へ向かう上州人・江戸とつながる上州人</b>								
<b>(1)【江戸の領主と上州人】</b>								
8	一札之事(御年貢漆江戸へ上納中漆こぼれ申候一件に付始末書)	享保元年	1716	11月	飯塚馨家文書	P8214	7012	三波川村の年貢漆について、江戸へ輸送途中で馬が暴れ、漆樽を落として漆をこぼしてしまった一件の報告。
9	[氷嵐による田畑荒詳細報告のため出府の申達]	未年		7月	坂本祐一家文書	P8202	990	旗本筒井氏が、知行地の雹害の状況報告などを求めて知行村々へ出府を要請した達。
10	出府日記帳(年頭挨拶)	文政5年～	1822-		伊能光雄家文書	P8003	225	旗本保科氏の知行地村々が年頭挨拶に訪問した際の出府日記。
11	[割元代官申付二付申渡]	嘉永7年	1854	8月	旧赤城村津久田区有文書	P1204	1374	旗本知行地の割元代官任命に際し、出府の際に苗字帯刀、中小性格を申し渡した。
12	覚(江戸屋敷より村方行き書状宛間違いにつき御詫)	丑		10月	坂本祐一家文書	P8202	1150	飛脚が宛先を間違えて到着が遅れた詫状。間違っても届けられても確実に書状が届いている。
<b>(2)【江戸に出訴する上州人】</b>								
13	碓氷関所絵図	寛延2年	1749	6月	柴崎恵五氏旧蔵文書(安中市蔵)			下記史料に関わる碓氷関所の俯瞰図。
14	差上申済口証文之事(碓氷関所遠圍五料村進退守護の土地へ入込み候一件)	文政4年	1821	12月	中島徳造家文書	P8909	7745	安中藩領五料村と諸戸村の争論により江戸出訴がなされた。関所遠圍内での雨乞が発端となり、評定所で争われた。
《コラム1》関所同心、身分を争う								
15	碓氷関所写真	(明治40年代)	(1907-)		後関家文書(安中市寄託)			関所定附同心であった後関氏が映る写真。後関円八の江戸出訴一件を紹介。
16	二ツ嶽一件出府日記 九番	嘉永4年	1851	6月	前橋市池端町自治会文書	P9515	9	榛名山二ツ嶽の蒸し湯をめぐる江戸出訴にともなう出府日記。江戸時代を通して繰り返し江戸出訴がなされた。
<b>(3)【江戸に滞在する上州人】</b>								
17	[遠山左衛門尉様より3人出府呼出の差紙に付回答]	(文政6年)	(1823)		林孝雄家文書	P8503	568	遠山左衛門尉からの呼び出しに関わる史料。公事宿の差紙廻達業務について。
18	[文六江戸屋敷願出し一件に付江戸宿より書状]	享和3年	1803	7月	中島徳造家文書	P8909	1641	安中藩領五料村の文六が、江戸屋敷に訪問して救済を願った際の公事宿の介入について、公事宿から五料村への書状。
19	[江戸宿より年始挨拶]	文久4年	1864	正月	山田松雄家文書	P8217	2168/10-1	公事宿の年始挨拶。江戸出訴時の江戸宿の働きを紹介。訴訟慣れていく百姓。「ぐんまの古文書」より。

番号	表題・資料名	和暦年	西暦年	月	文書群・ 簿冊名等	請求 番号	文書 番号	備考
《コラム2》出訴中にも見物！参詣！								
<b>(4)【江戸で働く上州人】</b>								
20	一札之事(拙者親江戸表江罷出たばこ小売歩行商等仕候に付届)	安永10年	1781	3月	飯塚馨家文書	P8214	5150	出稼ぎ奉公で江戸に出る者の事例。たばこの行商を営む者についての届。
21	乍恐以書付御訴申上候(江戸屋敷欠落者の搜索一件届)	宝暦2年	1752	2月	増田公平家文書	P9907	45	江戸屋敷には、村々からの奉公人が務めていた。本史料は江戸屋敷から逃げ出した奉公人の搜索に関わる史料。
<b>(5)【江戸へ売り出す上州人】</b>								
22	桐生呉服問屋書上絵図	(天保13)	(1842)		書上家文書(群馬県立歴史博物館所蔵)			桐生呉服問屋書上家の繁栄を描く絵図。江戸の得意先の記述があり、江戸に販路を広げる在郷町の様子がうかがえる。
23	取究申議定一札之事(白根山硫黄稼ぎ株並び売捌場所取極)	嘉永元年	1848	11月	佐田知治家文書	P8815	91	白根山、万座山からの硫黄の出荷に関する販売先の取決め書。江戸が販売圏に含まれており、上野国産物の需要が分かる。
《コラム3》江戸の不動産経営								
24	写 永代売渡申家屋敷之事	寛政7年	1795	12月	天田壮家文書	P08105	64-5	群馬郡下滝村名主天田善兵衛は、江戸で長屋経営を行っていた。本史料は長屋の売り渡しに関する証文。
25	差上申一札之事(困難百姓の盗難出訴出府金等の援助を感謝する届書)	文化4年	1807	11月	天田壮家文書	P08105	139-2	天田善兵衛は、奇特な者として幕府に褒賞されている。近隣の荒廃村の復興支援や、困窮者の救済を行っており、本史料は出府入用を工面した際の感謝状。
<b>(6)【江戸の娯楽と上州人】</b>								
26	一札之事(江戸見物中の定平、人別帳加入願い)	天明5年	1785	3月	林直家文書	P9802	96	江戸に見物に行ったまま帰村前に人別改めがなされた際の対応。
27	[江戸大相撲興行見物案内に付書状]	(近世)		2月	黒岩英夫家文書	P8311	5626	江戸大相撲の興行が来た際の案内についての書状。
28	[小野川喜三郎・谷風梶之助 相撲図](勝川春章画)	(近世後期)			黒岩英夫家文書	P8311	863	江戸大相撲の有名力士に関する相撲図。作者は勝川春章。
<b>4. べらぼうに身近な江戸文化</b>								
29	字帖(正俗音訓)	(近世)		6月	関緑家文書	P7801	539	辞書を写し置いた手控え。「べらぼうやろう」の文字。
30	[田沼意知一件戯文]	(近世後期)			福島英一家文書	P0110	1744	田沼騒動にまつわる狂言・戯文。
31	実語教童子教(鱗形屋孫兵衛板)	(初版明和4年力)	1767		木村善一家文書	P9102	469	手習い本 鱗形屋孫兵衛板
32	風来六部集(風来山人作)	安永9年	1780		長井進氏収集文書	P0504	42	平賀源内作の戯文集。
33	くにつくし(蔦屋重三郎蔵板)	天明2年	1782	6月	笛木ふう子家文書	P9604	218	手習い本 蔦屋重三郎蔵板
34	[日本及周辺全図、林子平図写](須原屋市兵衛板)	天明5年	1785		根井幸江家文書	P9409	723	「三国通覧図説」の付図の写 日本橋須原屋市兵衛
35	諸国道中かねの草鞋 十三(草津道、十返舎一九編)	(文政3年)	(1820)		勝山敏子家文書	P8702	2366	十返舎一九による諸国道中記。13巻は上州の草津へ巡行した記事が描かれる。十返舎一九編・軽雲亭國丸絵。
<b>5. 幕末の江戸と上州</b>								
36	異国船渡来の図(番所・異国人等)	嘉永6年	1853	6月	加藤史夫家文書	P1706	381-1	浦賀へ来航した際の絵図。浦賀の番所や異国人の様子などが描かれている。
37	異国船渡来の図(蒸気船・江戸湾沿岸警備絵図)	(嘉永6年6月以降)	(1853-)		黒崎太朗家文書	P8603	29	異国船来航図に描かれる台場
38	御台場御取建之図	嘉永6年	1853	8月	石井忠樹家文書	P01102	18-1	嘉永六年の台場構想(11基)
39	[御台場御普請御用材御伐出二而御荷銚山御林御見分二大瀧村瀧次同道願写]	(嘉永6年6月以降)	(1853-)	11月	飯塚馨家文書	P8214	12225	台場築造に関わる御荷銚山からの材木の供出について。
40	[父宛鈴木熊二書状写・江戸勤番の様子外]	(慶応4年)	(1868)	正月	鈴木重義家文書	P09402	43	高崎藩による三番台場の警衛に関わる父子の書簡の写し。
41	[御用留](徳川慶喜朝敵たるにより兵馬御差向の件)	(慶応4年)	(1868)	2月	尾崎忠男家文書	P8515	1286	新政府軍の東征に関わる先触。
《コラム4》江戸ニュースを見てみよう！								
42	海陸御固泰平鑑(江戸湾沿岸警備絵図)	(嘉永6年以降)	(1853-)		赤堀恒雄家文書	P8902	3599	江戸湾防備の持ち場を表した刷物。台場の記載。惣人数50万7千8百人
43	松平土佐守様御上屋鋪にて御覧(江戸土佐藩邸剣術試合人名書上、桂小五郎・坂本龍馬ほか41名)	安政4年	1857	3月	根井幸江家文書	P9409	122-51	土佐藩江戸上屋敷で行われた剣術試合の出場者名を記したもの。